

子どもを守るために、  
自分たちに  
できることはなにか。



代表 **富永 なおみ さん** (右)  
事務局 **石井 真理子 さん** (左)

西脇小児医療を守る会

市立西脇病院の先生が一人に  
を發足したのは?

2007年7月に、市立西脇病院(以下西脇病院)の小児科ドクターが1名になり、入院診療が休止になりました。入院できずに困っているお母さんの訴え、地元で開業されている小児科の先生から西脇病院の小児科の危機的状況をお聞きして、子どもを守るために自分たち出来ることは無いのか?自分たちができることをしようという母親たちが集まって「市立西脇病院小児科を守る会」を發足しました。

近隣の病院に行くことは考えなかった?

西脇市で開業されている先生はいらっしゃいましたが、入院施設はありませんでした。小野市民病院で入院はできましたが、西脇から行くのは遠く、それ以上に、加美・多可という、西脇より北に位置する地域では時間的にかんりの負担となります。入院する子ども以外にも小さな子どもさんがいるとなると、病院が遠いことは更に負担が多くなります。

人が人を呼んで集まったメンバー

会のメンバーを広げていった方法は?

西脇市の子育て学習センターという親子が集う施設があり、親の学びの空間でもあるところですが、遊びながら様々なことを学習できる場所でもあります。この場所は、サークル活動が盛んで、ここに集う皆さんは、ボランティアとして、積極的に活動している人がたくさんいらっしゃいました。声をか

けると、人が人を呼び若い子育て中のママから、孫の世話をしているおばあちゃん世代まで五十二名の方が集まってくれました。

目的が同じ五十二人の皆さんで、まず何をされましたか?

すでに西脇病院と同じような状況になっていた東立柏原病院にお世話になったお母さんが集まり發足させた「東立柏原病院の小児科を守る会」の方に相談し、交流を始めました。

まず、西脇病院の現状を知ってもらわないといけない、思いを形にしないといけない、ということ、署名活動をしました。その前に、西脇市長に懇談を申し入れ、「反発するのではなく地元

の病院を大切に思う市民の気持ちを形にして届けたいので、署名活動をさせていただきます」ということを伝えました。市側も、医師確保に尽力中であるということや、「署名活動は市としてもありがたい」という言葉をいただきました。この言葉を胸に、お母さん達のネットワークや、お父さんの会社での活動などで、2ヶ月で西脇市の人口を上回る六万五千人分の署名が集まりました。署名を集めるにあたって様々なご意見をいただきました。もちろん反対意見もありました。メンバーの間でも、「よし、やるぞ!」という人と、「これでいいの?」という人もいましたが、話し合い、葛藤しながら進めてきました。

求めるだけでなく、私たちにもできること

署名活動の他には?

現状を知ってもらうための署名活動だけでなく、行政や病院に求めるだけ

名称を「西脇小児医療を守る会」とされたのは?

広く伝えていくためにも、「市立西脇病院小児科を守る会」では西脇病院に限定されているようでした。ドクターが増えたことをきっかけに、今以上に活動を大切にしていくこと、「西脇小児医療を守る会」と名称を変更しました。

活動をするにあたって名称を変更して受け入れてもらいやすくなり活動の幅も広がりました。

歩み寄り、つながっていく

他の団体との交流は?

広島県庄原市から、地域医療の危機から講演を依頼されました。私たちと意見交換などの交流を行い、現在では庄原市の母親たちが中心となり、「庄原の小児医療を考えるひだまりの会」を立ち上げ活動されています。また、地域の方などたくさんの人に支えられて活動しているのを実感しています。そして、いろいろなところに行けば行くほど各地での医療の危機を感じます。ドクターと市民とが歩み寄る事が何より大切。自分たちの活動を伝える事で、各地の市民とドクターとの歩み寄りが進み、それがつながっていくばより良い方向に進むことができる。そんなきっかけになればと思っています。また、各地から西脇へ視察に来られるようにもなりました。

もうひとつは、企業とのネットワークです。大塚製薬さんのOS-1という商品を広めるきっかけとして、私たちがタイアップしました。企業は製品を口コミで広めたいという思いがあり、私たちは子どものために企業から良い情報を求めています。使用モニターを

「西脇小児医療を守る会」活動内容

- スタディーママの開催
  - ・スタディーママとは、子育て中の親御さんを対象にした勉強会です。子どもの病気についての予備知識を学び、適正受診を促すことで、医師の負担の軽減に繋がります。
- 「休日・夜間の小児救急」のリング冊子(図1)の配布
  - ・守る会が作成した、休日・夜間の緊急時に対応できるよう各種相談機関や情報提供場所をまとめた冊子。スタディーママの開催時等に配布しています。
- 日頃の感謝の気持ちを伝える「ありがとうメッセージ」を西脇病院・近隣の開業医院にお届け
- 各地での医療フォーラム等で講演 などなど...



(図1) 小児救急についてまとめられたリング冊子



▲情報誌「スタマ通信」をカットしてまとめたミニ冊子

「活動してきて、良かったと思うことは?」

やはり、入院診療が再開されたことです。ドクターは2人体制で、夜間や

でもなく、自分たちにできる独自の活動を模索しました。そして、スタディーママの活動を始めました。スタディーママでは、小児科の現状や医療に対する予備知識、上手な医療のかかり方などを学び、適正な受診を呼び掛けています。また、子育て学習センターでの勉強会活動を続けました。

ありがとうメッセージ活動

産科の立ち会いなどを考えると激務で負担は大きいと思います。今いてくださっているドクターを大切に、いつも感謝の気持ちを伝えるように心がけています。活動を重ねるうちに、ドクターのありがたさを知り感謝の想いを届けようという気持ちになり、医療関係者の方に日頃の感謝の気持ちを届ける「ありがとうメッセージ活動」も実施しています。実は、市長に署名を集めることを伝えるに行った時に「ありがとう」と言われました。社会でも、家庭でも、「ありがとう」という感謝の気持ちは自尊感情を育て、ありがとうが広がると、地域がよくなっていくような気がします。

Vol.16

聞く

シリーズ listen to...

西脇小児医療を守る会って?

「子どもを守るために、今自分たち出来ることをしよう」という母親たちが集まり立ち上げられた団体。現在は市立西脇病院小児科の医師の増員、適正受診を促すことでの医師の負担の軽減、地域で小児医療を守る輪を拡げることが目的に、講演や勉強会、情報発信等を行っている。

お問い合わせ・連絡先  
TEL.090-8538-1337  
URL.http://www.kodomonomirai.com/

プロフィール

富永なおみ (とみなが なおみ)

2008年1月、「西脇小児医療を守る会」のメンバーとして参加。2010年7月、村井前代表より引き継ぎ、同団体の代表となる。

石井真理子 (いしい まりこ)

2008年1月、「西脇小児医療を守る会」のメンバーとして参加。2011年3月現在、同団体の事務局として活動中。

企業とのタイアップは、民間だからこそできることだと思っています。地域づくりには行政も市民も企業もいっしょになってやるべきで、それぞれにメリットがあるということがこれからの市民活動には必要なことだとも思います。

最後に

守る会の今後は?

今まで変わらず、少しずつ長く続けていきたいと思っています。1人でも多くの人に現状を伝え、少しでも意識を変えてもらえたらいい。到達点を決めて目指すのではなく、少しずつでも何かが変わっていくように、今できる事をこれからも続けていきたいと思っています。